

編集ノート

樽本著『清末小説研究論』は、清末小説研究資料叢書9として発行した。主として清末小説の研究について30年間に書いた文章を集めたものだ。関連する書影と図版をできるだけ収録した。発表当時の写真をそのまま再録したものもあるし、新しく掲げたばあいもある。その中のいくつかは、今になってみれば珍しいものになった。たとえば、京都にある彙文堂だ。以前の2階建ての風情になつかしさを感じる人がいるだろう。内藤湖南が筆をふるった看板は、現在の移転新築したビルにも掲げてある。だが、以前の建物はなくなった。たとえば、淮安にある劉鉄雲故居である。故居訪問記は、今にいたるまでほとんど唯一の紹介文ではなかろうか。かの場所を訪れた日本人がいるとは聞いたことがない。淮安そのものが地理的に訪問しにくい場所なのだ。劉鉄雲の墓にいたっては、当時、劉氏一族すら墓参が許可されなかったというから、きわめて貴重だということができよう。なぜこの挿絵(368頁)なの

か意味が分らないという質問があった。ピーター・ブリューゲルの絵(部分)だといえはわかっていただけるはずだ。掲載誌の多くが少部数発行である。内部発行のものもあった。このたびの出版は、広く知ってもらいたい機会だ。といっても発行部数はわずか150であるが、季刊誌『清末小説から』は、現在、基本的にウェブサイトのみでの公開になっている(ただし、論文の著者には紙媒体に印刷したものを贈呈する)。清末小説研究会のホームページから自由に印刷できる。インターネットを經由して海外においても閲覧印刷できるように配慮したためだ。変えた理由のひとつは、お定まりの経費節減である。それよりも、個人で運営しているため印刷に労力と時間を取られるのがもっとつらい。学術出版には、手間ヒマがかかる。ご理解いただきたい。身軽になったぶん、発行はまだまだつづく

清 末 小 説 第28号

定価 3,150円(本体3,000円)

発行 2005年12月1日

発行兼編集人 樽本照雄

発行所 清末小説研究会

〒520-0806JAPAN 滋賀県大津市打出浜

8番4-202 樽本方

郵便振替 00990-6-40475

<http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>

印刷所 木村桂文社